

平成27年度 第4回

君津市総合教育会議 会議録

日時：平成28年3月22日 午前11時～

場所：議会第4委員会室



平成27年度 第4回君津市総合教育会議会議録

1 日 時 平成28年3月22日（火）午前11時00分開会 午前11時55分閉会

2 場 所 議会第4委員会室

|        |                |                       |       |
|--------|----------------|-----------------------|-------|
| 3 出席者  | 市長             | 鈴木 洋邦、教育長             | 山口 喜弘 |
|        | 教育長職務代理者       | 伊澤 貞夫、教育委員            | 佐藤ますみ |
|        | 教育委員           | 宮崎 洋史、教育委員            | 大野 睦  |
| 4 出席職員 | 総務部長           | 黒川 倫行、教育部長            | 吉田 茂  |
|        | 教育部次長(事)教育総務課長 | 荒井 淳一、教育部副参事(事)学校教育課長 | 宮崎 直樹 |
|        | 教育総務課副課長       | 西村 泰典、教育総務課企画総務係長     | 開田 雅典 |
|        | 学校教育課指導係長      | 植田 庸介                 |       |

5 傍 聴 人 なし

6 議 事 (1) 君津市学校再編基本計画（案）について

7 議題及び議事の概要

吉田部長

それでは、定刻より若干早いですが皆様既にお揃いでございますので、ただ今から「平成27年度第4回君津市総合教育会議」を開会いたします。

はじめに、この会議の進行でございますが、君津市総合教育会議運営要綱第3条第2項の規定により、議事の進行は、議長が指名する職員に行わせることが出来るとされておりますが、鈴木市長、いかがいたしましょうか。

市 長

前回と同様に吉田部長、よろしくお願いします。

吉田部長

はい。それではただいま市長からご指名をいただきましたので、私が会議の進行を務めさせていただきます。よろしくお願いします。

なお、本日は学校再編を進める上でのマスタープランとなる基本計画の最終案のご協議をいただくわけでございますが、当初、石井副市長にもご出席をいただく予定でしたが、石井副市長は急な公務が入りましたので、本日は欠席でございます。

吉田部長

それでは、次第に則りまして、進めさせていただきます。

はじめに、前回会議の概要についてを議題とします。

前回（第3回目）の会議内容につきましては、会議録を作成し、事前にご確認をいただいているところでございますが、記載内容についてご意見等がございますでしょうか。

《意見等なし》

吉田部長

よろしいでしょうか。

それでは、ご意見等もないようでございます。

会議録につきましては、ご承認いただきましたので、市のホームページ等で公表いたしますので、よろしくお願いいたします。

吉田部長

続きまして、議事に入らせていただきます。

議事（１）君津市学校再編基本計画（案）についてを議題といたします。

君津市学校再編基本計画（案）について、事務局の説明をお願いいたします。

《パワーポイントにより説明》

植田学校教育課係長

それでは、これまで教育委員会では学校再編基本計画を作成し、保護者や地域の方々等の意見を聴取し、汲み上げてきました。これまでの取り組み内容や、計画の大まかな内容、今後の取り組みについて、これから説明させていただきます。

わが国における学校というものは江戸時代の寺子屋や藩校から始まり、今日まで社会の形成者としての人づくりを担い、長い歴史によって築かれてきました。その間、高度経済成長、そしてその後の少子化など社会情勢の大きな変化や時代に求められる教育内容等により、その時代に合わせた教育改革や学校の新設・統合などの学校再編を行ってきました。現在、学校や子供たちを取りまく教育環境や社会環境が複雑化・多様化しています。日本全国で課題となっている急激な少子高齢化、いじめや不登校の問題、地域との連携など、教育課題は山積している状況です。そのような中、子供たちが変化の激しい社会の中で困難を乗り越え主体的に生きる力を身につけることが出来るよう学校再編に取り組むべき時期であると考え、現在、取り組み始めたところでございます。

こちらは、君津市の児童生徒数の推移を表したグラフです。昭和５７年にピークを迎え平成２７年度現在は６１９２人でピーク時の約半数となっており、国の調査機関の予測によると今後減少傾向は変わらず、３０年後にはさらにこの半分になってしまうことが予測されており、深刻な課題となっております。

こちらは市内の学級数を色別に示したもので、緑は学年２学級以上ある学校、黄色は学年によっては１学級しかないためにクラス替えが出来ない学校、また、水色は複式学級といって２学年で１学級の存在する学校を表しています。

こちらは部活動の種類と数を表した表です。表の黒丸は他校と合同チームを編成していることを表しています。部活動の成立数は最大で２２、少ないところでは４つとなっています。この４つも他校と合同チームにより成立している状況で、同じ市内でもこれだけの差がある現状となっています。

次に、学校再編基本計画について説明します。

まず、今年度１０月に学校再編の基本的な考え方を示した学校再編基本方針を策定しました。

これを基に活力ある魅力的な学校づくりのためのメニューに加え、有識者の方々、地域の方々、保護

者の方々の意見を伺いながら練り上げてきたものが基本計画です。次の教育委員会会議にて策定の予定となっております。この学校再編の基本的なコンセプトですが、3つの柱として「活力ある魅力的な学校づくりを目指すこと」「学校の適正規模・適正配置を進めること」「時代に合った新しいタイプの学校づくり」、これらを通して最終的には、子供たちにとってよりよい教育環境を目指し、学校の活性化を推進するものです。

活力ある魅力的な学校づくりとして、統合による適正規模・適正配置。それ以外に教育システムや教育内容として6つを考えております。まず、適正規模・適正配置についてですが、学校教育において子供たちが一定の規模の集団の中で多様な考えに触れ互いに認め合いながらも切磋琢磨できることが必要であると考えており、クラス替えができる規模という観点で国の基準を基に本市独自の基準を定めました。こちらは小学校の一覧で、平成27年度現在の学校規模を表しており、黄色が基準を満たす学校、白が基準以下の学校です。17校中5校が基準を満たしております。ご覧の通り、市街地においても基準以下、つまりクラス替えが出来ない学校が存在している状況です。こちらは中学校です。全11校中、6校が基準を満たしている現状でございます。

次に、統合に伴うものも含め、通学区域の見直しも必要であると考えており、子供たちの安全を第一として考え、基準となる範囲を示しております。具体的に、活力ある魅力的な学校づくりのメニューについては、統合等による適正規模・適正配置、それ以外には9年間のカリキュラムを編成し、学びと育ちの繋がりを重視する小中一貫教育、子供・地域の人々・学校がともに活躍できることを目指すコミュニティスクール、グローバル社会において、よりよく生きることができる人材育成を行う国際理解教育、子供一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行うことができるような体制を作るインクルーシブ教育システム、また、子供たちが社会に出た時に、自立し働くことを通して社会に貢献できることを目的としたキャリア教育、最後に生涯にわたり積極的に運動やスポーツに親しみ、健康の保持増進のための実践力を養うスポーツ教育、以上のようなメニューを考えております。詳細につきましては、本日配布しました学校再編基本計画の18頁から36頁にございますので、後ほどご覧ください。

次に、この学校再編基本計画を作成するにあたり、さまざまな立場の人から意見を聴取してまいりましたので、その経緯について説明します。

まず、学校再編有識者会議ですが、本年度発足し、基本方針の作成段階から各々のお立場から様々な角度からご意見をいただけてきました。委員は、地域関係者、学識経験者、教育関係者の12名で構成され、明日開催の会議も含め全6回開催することになります。その中で出た主な意見として、「子供たちのためには再編の考え方は必要であり、しっかりと進めてもらいたい。」というご意見や、「地域性や子供を取り巻く環境等にもしっかりと配慮しながら進めていくべき。」というご意見、また「再編を進めるにあたり子供たちのために必要なことについては、十分な資本投下を行ってもらいたい。」という要望、そして、「地域ごとに丁寧に説明をしてほしい。」というご意見をいただきました。

また、全11中学校区の地区で、2回説明会を実施してきました。第1回目は、延べ811名、2回目は702名の地域の方々や保護者の方々が参加してくださり、生の声を伺ってまいりました。主な意見として、「集団生活の中で仲間と関わり学習することで子供たちは成長するので、学校はある程度の規模が必要である。」というご意見、そして「子供も発達段階が違うので、小学校中学校で段階的に行うなど考慮して進めてほしい。」というご意見、また、「地域コミュニティの中心として学校は存在しており、

地域にとってとてもかけがえのないものである。さらに、統合により地域の衰退に繋がるのではないか」という心配する声も聞かれました。

また、年末にかけて、現在、小・中学校に子供を通わせている保護者と、これから子供を入学させる幼稚園・保育園の保護者を対象としたアンケート調査も実施しました。こちらは小学校のアンケート結果です。「将来、お子さんが通っている学校の再編は必要だと思いますか。」という設問に対して、青は必要、緑は必要だと思わない、白はどちらともいえないを表しています。こちらは中学校のアンケートです。小学校と比較すると、必要感を持っていらっしゃる方の割合はやや高くなっています。これは部活動の面や高校進学の面などが関係していると捉えています。

こちらは、各中学校区のアンケート結果です。学校再編は必要であるとする保護者の割合はご覧のとおり地域によって差があります。現在、適正規模の学校では低い割合ですが、単学級のある規模の小さい学校では高い割合となっております。どちらとも言えないという回答は、学校再編の考え方は理解できるものの、通学などの諸条件がわからないので回答できないという思いもあると捉えています。

また、地区説明会において、「子供たちの声も吸い上げてほしい。」という意見もあり、中学校合同生徒会において、これまでの君津市の歩みや現状、今後の人口予想等を説明した上で、それを受けて理想の学校像について話し合いを行っていただきました。その中で出た意見として、「今だけでなく自分の後輩たちのことを考えると、やはり統合によってある程度の規模にすることがよいと感じた。」というものの、一方、「小規模校には小規模校の良さがある。」という声も聞かれました。「各学校の学習や行事について事前に情報交換を行ったので、学校間の差に驚いた。」という意見もありました。そのような中でも、「規模に関係なく今自分ができることを精一杯やりたい」という発言もありました。子供たちなりに真剣に捉え、今の自分たちだけでなく後輩たちのことまで考えてくれたことがとても印象的でした。

さらに、行政センターや公民館等に基本計画を置き、意見公募も行いました。「障害のある子供の教育環境について、統合により後退することがないようにしてほしい。」というご意見や、「他の市町村の見本となる魅力的な学校づくりをしてほしい。」というご意見、また、地区説明会で説明をした再編のイメージに関するものも多くございました。

さらに、議会でも基本方針や基本計画について議論を深めてきました。地区説明会に対する市民の反応をどのように受け止めたのかという質問に対して、行政としては計画そのものについてはおおむね理解を得られていると感じているとの答弁をし、統合になった場合の施設設備の考え方についての質問に対しては、計画の中にあるように既存施設の有効活用を基本としているが、ファシリティーマネジメントとの整合性を図り進めていく旨、答弁しました。そして、要望として教育の充実は子育て世代を呼び込むことにも繋がりますので、スピーディーに推進してほしいというご意見もいただきました。また、これまでいろいろな方からの意見の聴取をしているが、一番大切なのは今子供を通わせている保護者であるというご意見もいただきました。我々も保護者の意見は重要であると捉えております。さらに、統合する場合に留意していくことについての質問があり、具体的には教育課程や通学手段だけではなく、校名・校歌・PTA組織、特色ある学校行事、地域文化の伝承等々、学校・保護者・子供たちへの配慮が必要だと考えていることを確認しました。

次に、第2回目の地区説明会において各地区での再編のイメージを提示してきましたので全地区をご紹介します。

君津中学校区では、小学校における体を育む取り組みや中学校での武道授業における外部指導者の活用や部活動の充実を踏まえ、特色ある教育について2種類のものを提示しました。

周西中学校区では、隣接した地域に小・中学校、そして高等学校が存在するという立地条件があり、特色ある教育内容を3つ提示しました。また隣接地域との通学区域の見直しについても提示したところでは。

周西南中学校区では、通学区域の見直しと地域性や学校を支援する団体などの取り組みから、特色ある教育について3つほど提示しました。

八重原中学校区では、小学校が適正規模を満たしていない現状があります。そして考え方としては、学区の見直しにより適正規模を求めることもひとつの考え方であるとして提示しました。

周南中学校区では、1小1中という立地条件と、これまで地域の子供たちを育ててきた活動をふまえ、2種類の特色ある教育と、通学区域に関しては通学の距離や安全面への配慮をする必要があることを確認しました。

これまで示した特色ある教育については、それぞれの地域性やこれまで各学校での取り組み等を踏まえて案として提示したものです。当然、教育課程に関わるものについては、今後、学校側とも協議をしながら進めていく必要があると考えております。

次に、小糸中学校区ですが、統合による適正規模と特色ある教育について提示し、統合についてはAからCという形で提案しました。これは基本計画に則り、その上で第1回目の説明会での意見を基に考えたものです。

清和中学校区は、小糸中学校区とほぼ同じ形で3つの案を提示しました。小学校の複式学級の解消については早急に取り組むべき課題であると捉えております。適正規模を求めると小糸地区との統合を求める必要がありますが、発達段階や地域の考えを踏まえ提示したものです。

小櫃・上総地区も同じ考え方によるものです。適正規模を求めると4校の統合が考えられますが、発達段階に応じて配慮することもひとつの考え方だと捉えております。

いずれにしても、第2回の説明会では、これまで示した再編のイメージを提示し、それに対するご意見を伺ってまいりました。今後はこれらを基にして実施プログラムへと繋げていきます。

最後に、今後のスケジュールについてご説明します。次年度はまず、実施プログラムを作成します。このプログラムは、どの学校をいつまでに、そして統合を含めたどのような活性化策を進めていくのかということが具体的に示されます。それをもって学校・保護者・地域の方々に再度説明に伺う予定です。その後実施プログラムの具現に向けて、通学手段の確保、必要な設備の洗い出し、それに係る予算の確保などを行っていきます。また、小中一貫教育など教育内容を進めるのに必要なカリキュラムの作成、実施のための学校の体制作り、そのために必要な人的・物的な支援検討などを行っていきます。地域の方や議会でも要望があったように、スピード感を持って対応していきたいと考えておりますが、これらの諸条件整備等には2年程かかるだろうと考えております。

以上で説明を終わらせていただきます。

吉田部長

ただいま、事務局から基本計画（案）について、説明がありました。  
お一方ずつ、基本計画（案）についてご意見を頂戴したいと思います。  
まず市長、いかがでしょうか。

市 長

前回の会議でも申し上げましたが、学校再編には地域の考えや思いがたくさん寄せられることと思います。学校再編は、近年の急速な少子化、あるいは行政としても責任を持って取り組んでいかなければならないと考えています。

まちを活性化させるためには、教育・福祉はとても大切な、大事な分野でありまして、平成26年2月には、産院を誘致して、子育て支援の充実も図ってまいりました。

子育て世代の方が、「君津に住みたい」、「君津の学校に通わせたい」と思ってもらえるような学校づくりを考え、学校再編については、何より、子どもたちのことを思い、スピード感を持って進めていくことが一番大切だと思っております。以上です。

吉田部長

ありがとうございました。ただいま鈴木市長から、学校再編については、まず、子供たちのことを最優先に考えて、スピード感を持って進めていくことが大切だというご意見がありました。

それでは各委員さんからご意見をいただきたいと思います。はじめに、伊澤委員いかがですか。

伊澤委員

ただいま説明をしていただきましたけれど、教育委員会でも何度か説明を聞き、それから各学校での説明会にもいくつか参加させていただき参加者たちの意見等も聞いて、参加者の意見もなるほどなどという部分も多々あったわけですが、やはり君津市の将来像を考えた場合、一番ネックとなるのが人口。子供たちの人口も減っていくということを考えたら、やはり活力のあるときに大きな手立てを打っていかねばいけないというようなことで、この計画に沿ってやっていかざるを得ないんじゃないかなというふうに考えております。

それとやはり子供たちが学校生活で、君津の小学校中学校で学んでよかったと思えるような計画にしていきたいと思いますということも含めて考えています。

大変大きな改革を行うわけですので、人的あるいは物的等の十分な予算措置を市長にお願いしたいと思います。やはり保護者、あるいは地域の方々が納得するための改革を実行するには、それだけの予算措置も十分手当てをしていただかないと、なかなかうまく進まないのではないかと思いますので、私は市長に予算面での十分な配慮をお願いしたいということをお願いして、意見を終わらせていただきます。

吉田部長

ありがとうございました。

ただいま伊澤委員からは、少子化というのは大きな問題であり、各学校が活力あるうちに大きな手立てを打っていくべきで、この計画に沿って再編等を行っていくべきだということ。また、子供たちが学校生活を送る上で「君津の学校で学べてよかった」と思えるような計画にすべきである。そして最後に、これは市長への要望でございますが、大きな改革のために、人的・物的な面の支援がぜひ必要である、そのためには十分な予算措置も市長にお願いしたいというふうなご意見ご要望もございました。

吉田部長

それでは次に、佐藤委員、いかがでしょうか。

佐藤委員

はい、子供たちにとってよりよい教育環境を目指していくためには、やはりこの学校再編の基本コンセプトの3つ、「活力ある魅力的な学校づくり」「学校の適正規模・適正配置」「時代に合った新しいタイプの学校」、この3つは本当に大事だと思います。子供たちが明るく楽しく学校に通って、いじめや不登校といった教育課題に、家庭と地域と学校、また行政が一体となって取り組んでいくための学校再編で

あってほしいと思います。コミュニティスクールとか、インクルーシブ教育システムなど、その要素を十分に取入れた再編メニューだと思います。私の要望ですけれども、地域とともにある学校、こういった視点を大切にしていきたいと思います。以上です。

吉田部長

ありがとうございました。ただいま佐藤委員からは、学校再編の基本コンセプトの3つは非常に大事な要素であるというようなことでございます。また、いじめや不登校などの教育的な問題につきましては、学校、地域、家庭また行政が一体となって解決していくべきではないかと。また、最後には地域とともにある学校、というような面も非常に大事ではないかと、そういう面もしっかり考慮していきたいというようなご意見でございました。

吉田部長

続きまして大野委員、いかがでしょうか。

大野委員

私も3人男の子の子育てをしてまいりました。子ども達は小さい頃から揉まれて成長すると妻ともよく話をしていました。親・先生以外のたくさんの大人の人、そして友達と、いかに多くの人たちと触れ合うかが今後の子供たちの成長への財産になっていくのではないかと考えております。先ごろ中小学校、小糸小学校、小糸中学校の卒業式でご挨拶させていただきましたけれど、やはり子供たちは色々な先生方との触れ合いであったり、仲間との触れ合い、その関係がこれからの財産になるというふうにご挨拶いたしました。そんな関係もありまして、やはり適正な学校規模がやっぱり必要になってくるのかなと思います。強いては豊かな人間形成であるとか、社会性を伴うものになるのではないかとというふうに思っています。そのためにこの再編計画がありますので、今まで以上に、今もすばらしい計画（案）でございすけれども、もっともっとより細かく色々な面で考えていただければと思います。

私の要望といたしましては、先生方のスキルアップのこと。色々な事件事故が今、学校で取り沙汰されておりますが、先生方が忙しすぎるということが多くつぶやかれております。なんとかこう再編により、先生方の時間的余裕であるとか、子供と向き合える時間を取っていただけるような環境を整備していけたらなと思っております。以上です。

吉田部長

ありがとうございました。ただ今大野委員からは、子供たちにとっていかに多くの方と触れ合いが出来るのか、それが子供たちにとって財産になっていくと。そのためにはやはり適正な規模が重要なポイントになろうと。また、そのことによって子供たちが豊かな人間性を育むことにもなっていくと。計画策定に当たっては、もっと細かい部分まで考えてほしいというご意見でございました。

また、ご要望といたしましては、先生方のスキルアップということでございました。昨今、学校における事件や事故が多発していると、やはり先生方が忙しすぎるのではないかと、逆に時間的余裕、子供たちとふれあえる時間が必要ではないかと。そういうふうな面についても、考慮してほしいというようなご要望でございました。

吉田部長

それでは宮崎委員、いかがでしょうか。

宮崎委員

だいたい同じような意見になると思いますけれども、学校にはそれぞれ長い歴史があります。特に山間部に行けば行くほどあります。君津地区の場合は、大手企業の進出以来、凄く人口が増えたということがありますが、そんな中で中山間地域は、人口が減って子供の数も減っていくというような状況にあります。児童生徒数が少なくなっていくという中では、やはり活力が無くなってしまうということがありと思いますので、この再編メニューにのっとって、また、魅力ある君津の学校を作っていくってほしいと思いますし、10年20年あつという間に来ますので、なるべく早く進めていただければなと思います。以上です。

吉田部長

ありがとうございました。

ただいま宮崎委員からは、山間部に行けば行くほど特に少子化が問題となっていると。当然に各学校においては活力がなくなってきていると。再編メニューにのっとって再編を進めていただきたいと、それもやはりスピード感を持って早く進めていっていただきたいというご意見でございました。

吉田部長

それでは山口教育長、ご意見よろしく申し上げます。

山口教育長

先ほど、市長さんのほうから、まちづくりの活性化には教育福祉が大変重要というご意見がございました。今議会でもご承知の通り、まちの活性化には、やはり学校再編が非常に重要じゃないかというようなご指摘をいただきました。子育て世帯が集まるような学校再編、「頑張れ」というような非常に熱いエールをいただいたわけでもございまして、腰を据えてじっくりやっていきたいと思っております。

それから、統合にしても、小中一貫校にしても、施設設備の充実というのが必ず必要になってきます。これも議会でご答弁申し上げましたし、もちろん基本計画の中にも入っております。その中に既存施設・設備を最大限有効活用してやっていくんだというものでございます。この辺もですね、今後、市長さんと協議しながらやっていきたいなと思っております。

それからもうひとつは、これも大事な視点だと思っております。統合が進んでいきますと跡施設の活用というのがひとつの課題になっていきます。これもですね、耐震もちゃんと実施しておりますし、施設としては非常に価値のあるものです。ですから、これも地域の住民福祉のために有効活用していくという視点で、これは教育委員会だけでは活用法というのはなかなか難しいわけです。ですから、このような総合教育会議も設置されましたし、学校再編の説明会にも企画部も入っていただきました。やはり地域振興に再編も一緒に絡んでほしい、あるいはそういう積極的な姿勢でやってくれという要望は非常にあったわけです。ですからこの辺もですね、今後はまた連携を密にして、これまで以上に市長部局と協議しながら学校再編を推進していきたいと思っております。以上でございます。

吉田部長

ありがとうございました。

ただいま山口教育長からは、再編につきましては、議会からも熱い応援のエールをいただいていると、腰を据えてやっていきたいという言葉がありました。また、施設面については、既存の施設・設備を最大限に活用していくというのが基本的な考えということと、跡施設の活用も問題になってくる。活用方法について、市全体で地域振興も含めた部分で連携を密にしてこれから協議していくというふうなご意見をいただきました。

山口教育長

ひとつ付け加えさせていただきます。先ほど大野委員から、先生方が非常に忙しいという話の中で、今いじめの問題とか、家庭内での問題が非常にあります。学校だけでは完結しづらい案件が確かにあるということで、これと学校再編をどうやって絡めて行くかということで、インクルーシブ教育システムや道徳教育もあるわけです。そういった面でやって行きたいと思っておりますが、ただシステムとして、今、文科省のほうで「チーム学校」という考え方がございます。今までは教員を中心にやってきたわけですが、例えば福祉の問題などは、なかなか学校ではスキルがないわけです。そういうときにソーシャルスクールワーカー、あるいは今も配置されているスクールカウンセラー、あるいはそれを繋げる事務職員の強化、事務職員の共同実施を行っておりますけれども、そういう意味で、教職員全体でやっていくのが今までだったのですが、さらに外部からそういうスキルを持った人を招聘してやっていこうという考え方が今後、出てくるはずなんです。そういう文科省の流れもあります。ですから今回の学校再編と絡めて何が反映できるかという視点も持っていきたいと思っております。大野委員の貴重なご意見だというふうに承りました。

吉田部長

ただいま教育長から、大野委員の発言に対するお答えがありました。いじめの問題等、学校だけでは完結しない状況があり、それにつきましては「チーム学校」というふうな考え方が出てくる。外部からのスキルを持った方、専門的な方を設けましてこれから対応していくというようなご回答でございました。

吉田部長

それでは、お一方ずつ、ご意見等をいただきました。全体的な部分で、他にございますでしょうか。

吉田部長

それでは鈴木市長、全体的な部分で、よろしくお願いします。

市 長

本計画（案）は、わたしも、おおむね理解いたしました。学校再編は、昨年11月に策定した教育大綱の6つの柱のひとつであります。この計画をもとに、しっかりと進めていただきたい。今後は、学校再編にかかる、諸条件の整備も必要となってくるので、この総合教育会議でさらに 協議、調整してまいります。以上です。

吉田部長

ありがとうございました。ただいま鈴木市長からは、学校再編については様々な整備も必要となってくるので、この総合教育会議の中で協議や調整をしていくというふうなお話でありました。

なお、本日 教育委員の皆様からいただきましたご意見等をよく参考にさせていただきまして、25日に開催する 教育委員会会議に提出させていただきたいと考えております。

先ほども申し上げましたが、学校再編に係る諸条件の整備等につきましては今後もこの総合教育会議で 協議、調整させていただきたいと考えております。

吉田部長

ただいま議題となっております、議事（1）君津市学校再編基本計画（案）につきましては、お手元に配布してございます冊子の通りということでよろしいでしょうか。

《意見等なし》

吉田部長

それでは、異議も無いということでございますので、ただいま議題となっております（1）君津市学校再編基本計画（案）につきましては、お手元に配布してございます案の通りとさせていただきます。

吉田部長

ただいま議題のほうは終わりました。次第の4でございます。

その他でございますが、連絡事項含めまして事務局や委員の皆様、何かございますでしょうか。

《意見等なし》

吉田部長

それでは、本日の議題はこれですべて終了いたしました。

閉会にあたりまして、鈴木市長からご挨拶をお願いしたいと思います。

鈴木市長

今年度から始まりました総合教育会議ですが、第1回目の会議から本日まで、教育長をはじめ、教育委員の皆さん大変ご苦労さまでございました。

これまで、教育大綱や学校再編基本計画 などについて4回の協議を行ってまいりましたが、今後についても、教育長をはじめ、教育委員の皆さまとより一層、連携・協力しながら、本市のよりよい教育を

推進してまいりたいと考えております。

今後も、皆さまのご理解、ご協力をお願い申し上げまして、閉会にあたっての挨拶といたします。  
ご苦勞様でした。

吉田部長

鈴木市長ありがとうございました。

それでは以上をもちまして、第4回 君津市総合教育会議を終了とさせていただきます。

長時間にわたりまして、大変ご苦勞様でした。